

一般社団法人四日市観光協会

観光・まちづくり推進ビジョン

(2023~2027)



令和5年6月

目 次

1. 本ビジョンの策定にあたって	1
2. 観光協会の概要	2
① 会員	2
② 組織体制	2
③ 財務状況	3
④ 業務内容	3
3. 観光の現状と取り巻く環境	6
(1) 日本の観光動向	6
(2) 三重県の観光の現状	7
(3) 四日市市の歴史と観光の現状	8
① 四日市の歴史	8
② 四日市の観光の現状	9
③ 四日市の観光客数	9
(4) 四日市市の観光政策等	10
① 四日市市観光・シティプロモーション条例（平成28年4月1日施行）	10
② 四日市市総合計画（計画期間：2020年度～2029年度）	11
(5) 四日市のまちづくり	11
① 四日市中央通りの再編	11
② 四日市みなとまちづくりプラン（2021年11月策定）	13
4. 今後の課題と見通し	14

(1) 観光協会の事業課題	14
(2) 観光協会の組織課題	15
(3) 今後の見通し	16
① 日本の観光産業の見通し	16
② 四日市ならではの特殊要因の見通し	16
5. ビジョンについて	18
(1) 目指す姿と戦略期間	18
① 目指す姿	18
② 計画期間	18
(2) ビジョンの重点事業	19
(3) 重点事業の考え方と具体的な施策	20
① ビジネス客の余暇時間をターゲットとした観光コンテンツの造成	20
② ナイトタイムにおける滞在・周遊・消費を促進する企画の実施	21
③ ビジネス客に訴求する情報の発信	21
① 中央通り周辺の賑わいを創出する定期的なイベント等の企画・開催	22
② 新たな観光資源の創出と受入環境の整備	23
③ 近隣市町等との情報共有及び効果的な情報発信	24
① バスタ運営会社との定期的な情報交換と提携の交渉	25
② 安定した協会運営のための職員のスキルアップ	25
③ 物販やイベント開催等による自主財源の確保、人材の獲得	25
(4) KPI（成果指標）	26

重点事業〇１の KPI	26
重点事業〇２の KPI	26
重点事業〇３の KPI	26
6. 推進体制及び進捗管理.....	27
（１）推進体制.....	27
（２）進捗管理.....	27

1. 本ビジョンの策定にあたって

一般社団法人四日市観光協会は、1965年に発足して以降、四日市の観光案内のみならず、地域の魅力アップにつながるツアーの企画・実施や新たな観光コンテンツ造成への協力など、地域の観光振興に取り組んできました。近年は、当協会を更に発展させ、地域の観光振興の牽引役として中心的な役割を担う事が期待されています。

当協会は、そのような役割を果たすため、四日市市及び周辺地域における観光事業等を推進することにより、地域経済の活性化を図るとともに、健全な観光・文化振興、都市イメージの向上及び市民が地域を誇りに思う心の醸成に寄与することを目的として、2021年4月1日から一般社団法人となり、新たなスタートを切りました。

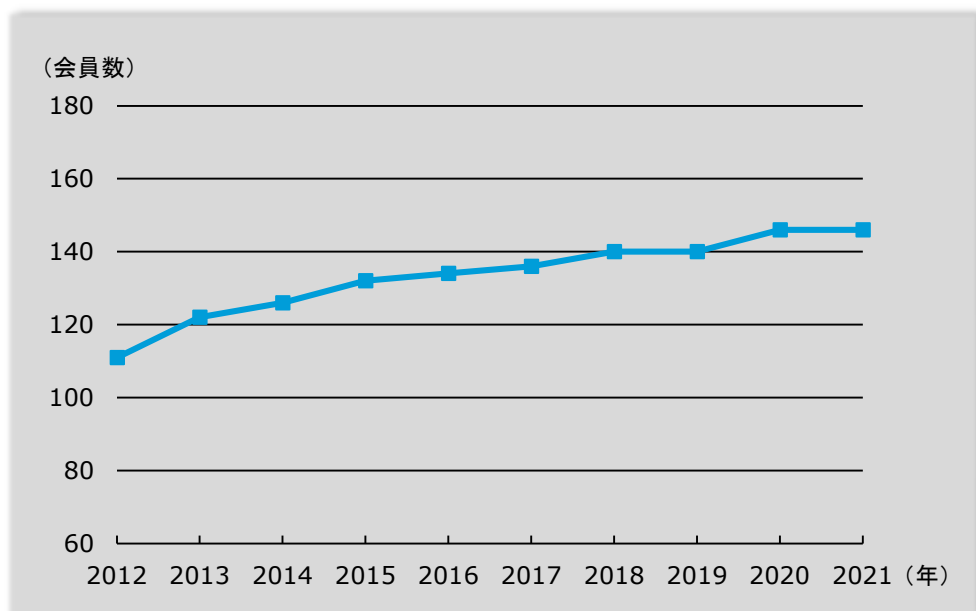
今後は、中長期的な視点に立って観光まちづくりを推進するため、観光の現状や取り巻く環境、課題等を十分認識し、現状を分析して今後の展開を見据える必要があります。それらを踏まえ、当協会が目指す姿を設定するとともに、中期的に取り組む重点事業などを本ビジョンとしてまとめ、同じ方向性のもと関係者が一丸となり、目的の達成に向けて取り組んでいきます。

2. 観光協会の概要

① 会員

当協会は2022年6月定期総会時点で147者の会員がおり、わずかながら増加傾向にあります。会員の業種は飲食・宿泊業やインフラ関連事業者などが多いですが、幅広い事業者に入会いただいています。

協会の会員数の推移



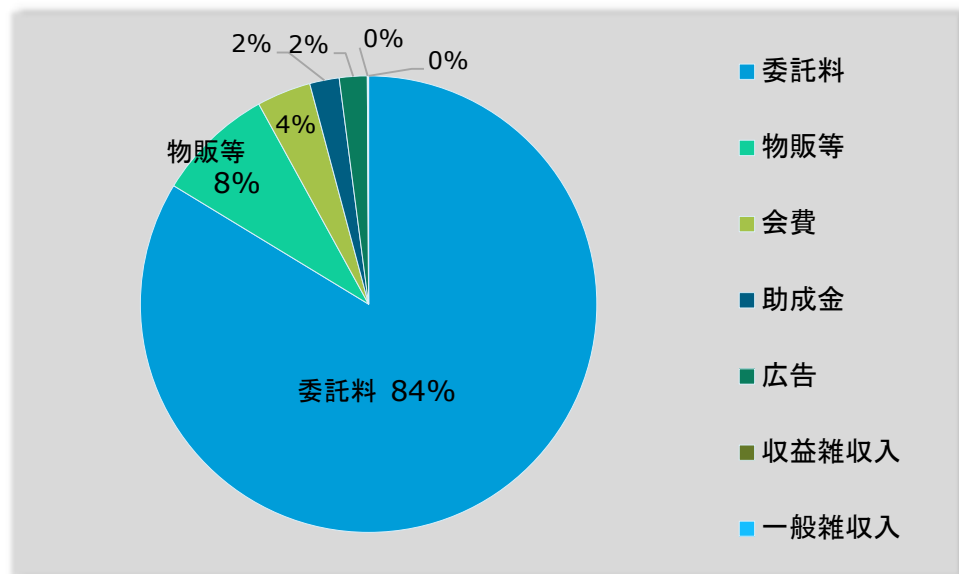
② 組織体制

当協会の組織体制は、会長を含めた理事7名から組織する理事会を業務執行の意思決定機関として位置づけ、2022年12月末時点で事務局5名（パートタイム職員含む）が実務を担う体制となっています。

③ 財務状況

当協会の主な財源は、四日市市からの委託料、物販、会費等であり、四日市市からの委託料が全体の84%を占めており、財源の中心となっています。

協会収入の割合（2021年度）

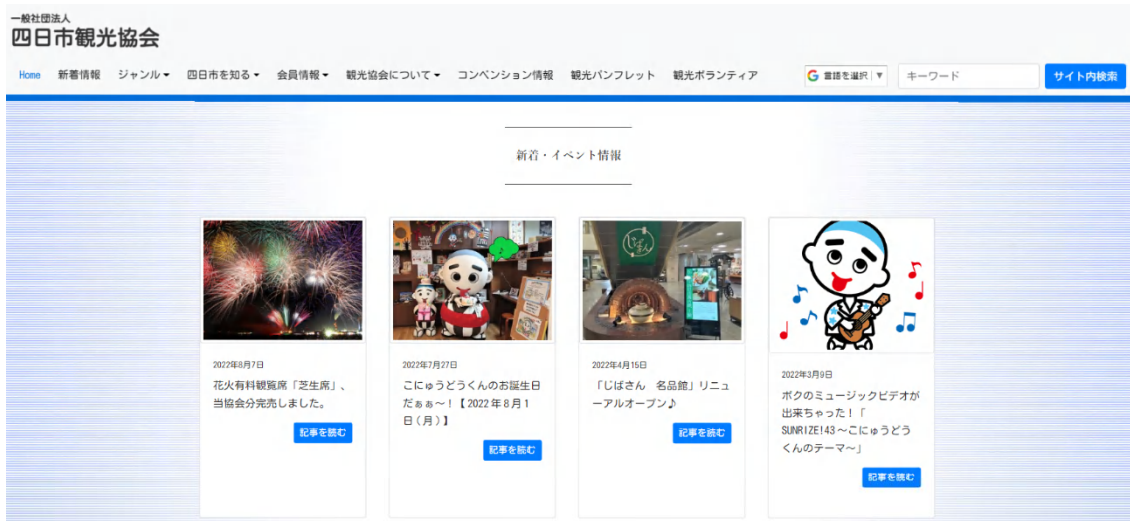


④ 業務内容

当協会の主たる業務は、観光案内であり、近鉄四日市駅にある四日市物産観光ホール内の四日市観光案内所におけるおもてなし、電話等による観光情報等に関する問い合わせへの対応、HP・SNS等を活用した情報発信、会員等への情報提供を実施しています。



お休み処四十三茶屋（四日市観光案内所）の運営



四日市観光協会の公式 HP による情報発信



Instagram



Twitter



Facebook

四日市観光協会の
公式 SNS による情報発信

また、四日市市マスコットキャラクター「こにゅうどうくん」を活用したシティプロモーションや映画・テレビドラマ等の映像制作支援（フィルムコミッション）、メディア等からの取材対応、こにゅうどうくんグッズや地場産品などの物販、市内等で開催されるイベントへの出店も実施しています。



イベント出店・物販及び「こにゅうどうくん」を活用したシティプロモーション



映像制作支援（フィルムコミッション）

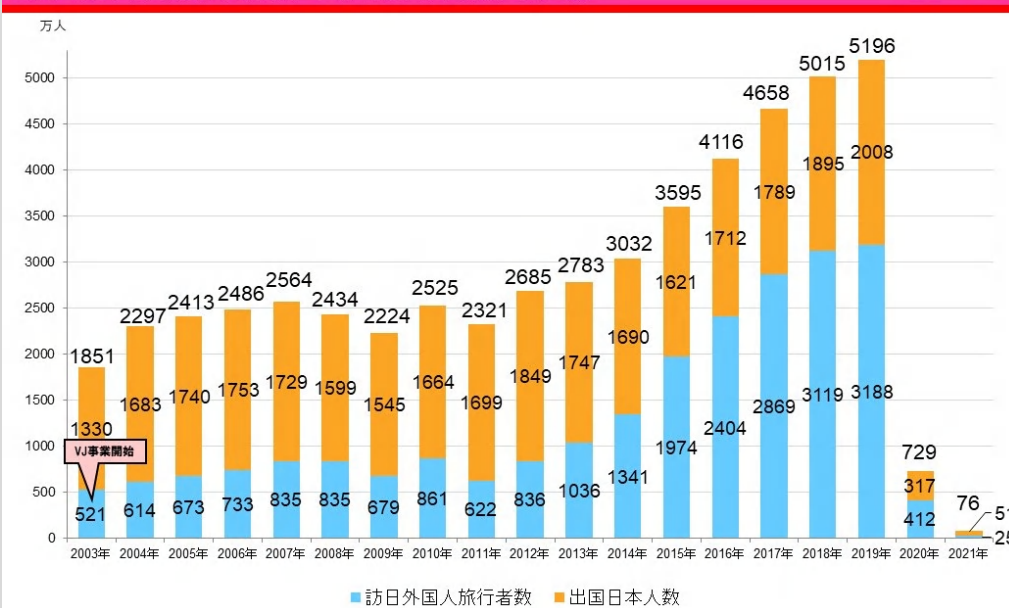
3. 観光の現状と取り巻く環境

(1) 日本の観光動向

国は、2007年1月に「観光立国推進基本法」を施行し、「住んでよし、訪れてよしの国づくり」を基本理念に掲げ、観光を「地方創生」への切り札として成長戦略の柱に位置付けました。その後、国は「明日の日本を支える観光ビジョン（2016年3月策定）」において具体的な施策を掲げ、ビザの戦略的緩和や日本政府観光局によるプロモーションなどを実施し、特に訪日外国人旅行者の誘客に力を入れて取り組んできました。その成果もあり、訪日外国人旅行者数は、2019年には3,188万人となり、世界で12位（アジアで3位）となりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い世界各国において水際対策が強化された影響等により、2020年からインバウンド需要はほぼ蒸発し、国内旅行についても、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による行動制限に伴い大きく減少するなど非常に厳しい状況となりました。

訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移



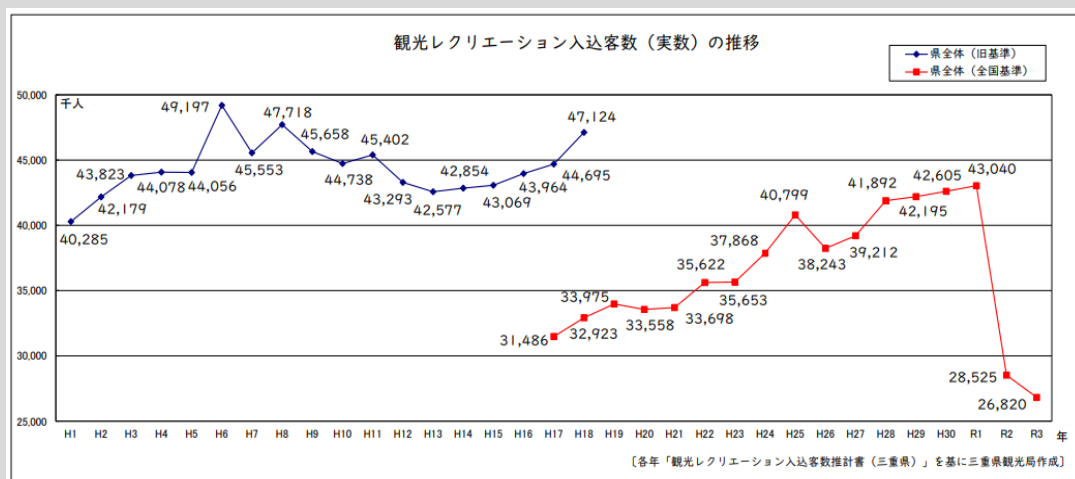
出典：観光庁

国は、深刻な影響が続く観光産業の事業継続と雇用維持を図るため、雇用調整助成金や都道府県独自の「県民割」の支援など実施しました。

そして、2022年10月には、訪日外国人旅行者の入国者数の上限が撤廃されたり、「全国旅行支援」がスタートしたり、コロナ前に近い環境を取り戻すための動きが本格化しました。さらに、国は円安メリットを生かし、インバウンド消費5兆円超を目指すため、「インバウンドの本格的な回復に向けた政策パッケージ」を決定し、観光再始動を推進しています。

(2) 三重県の観光の現状

三重県は、古くから「お伊勢参り」の言葉があるように全国各地から多くの人々が訪れていました。近年における旅行形態の多様化や全国各地の観光地間の競争激化の中でも、伊勢志摩サミットの開催やお伊勢さん菓子博、インターハイの開催などにより、国内外からの三重の認知度・注目度を高めてきました。その結果として、三重県の観光レクリエーション入込客数は、2015年から堅調に増加し、2019年には、43,040千人に達しましたが、国と同様にコロナの影響を受け、2020年以降は大きく減少しました。



出典：三重県観光レクリエーション入込客数推計書

コロナ禍において、三重県は宿泊等割引事業「みえ旅プレミアムキャンペーン」や観光資源の魅力創出事業、観光DX推進事業などを実施し、県内での周遊・滞在促進に取り組んでいます。また、公益社団法人三重県観光連盟は特に情報発信に力を入れており、当該連盟が運営するHP「観光三重」は2021年の年間アクセス数は2,377万PVと全都道府県公式観光情報サイト閲覧者ランキングで2位を獲得しています。

(3) 四日市市の歴史と観光の現状

① 四日市の歴史

四日市は、西は鈴鹿山脈、東に伊勢湾を望むすばらしい自然に恵まれた場所です。古くは、古事記や日本書紀の時代から交通の要衝として様々な歴史を刻んできました。室町時代には「市（いち）」が開かれたまちとして、江戸時代には東海道の43番目の宿場町として栄えてきました。明治時代には近代産業が発展し、世界に広がる港まちとなりました。第二次世界大戦後には、海軍燃料廠跡地に日本を代表する石油化学コンビナートが形成され、高度成長期以降はコンビナート企業の立地を背景に多様な産業が集積し、全国でも有数の工業都市として発展してきました。その発展の過程で発生した四日市公害に関しては、市民・企業・行政が一体となって、環境改善に取り組むことによって、産業の発展と環境の改善を両立したまちづくりを行ってきました。

四日市市の産業の移り変わり



② 四日市の観光の現状

四日市は、前述のとおり産業が盛んであり、出張などによるビジネス客が多く来訪する都市でしたが、近年はコンビナート夜景クルーズや大規模イベントの開催、クルーズ客船の寄港など観光面での賑わいが創出されています。



コンビナート夜景クルーズ



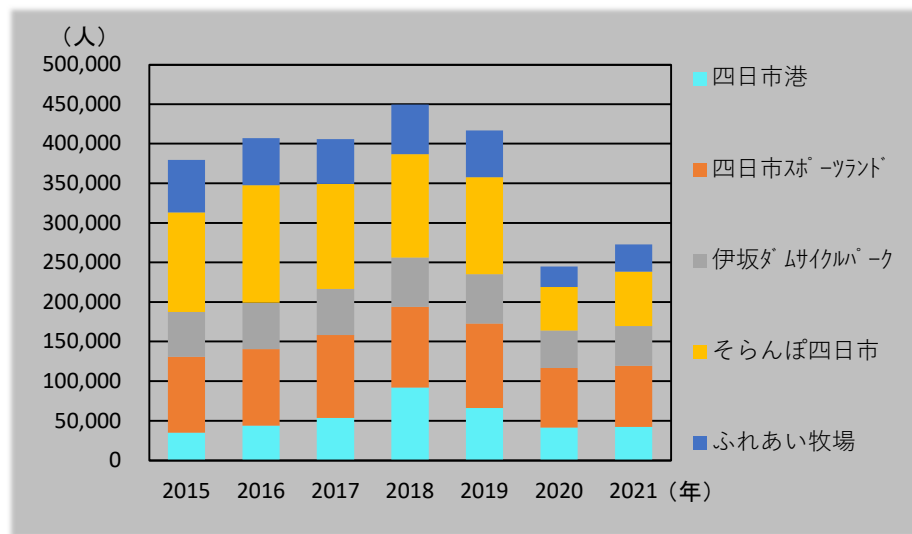
大型クルーズ客船の寄港

一方で、2020年2月以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、飲食・宿泊業、旅行業などの観光産業は特に厳しい状況が続いています。

③ 四日市の観光客数

四日市市の観光客数（主要5施設）は、次ページの表のとおりです。2019年までは横ばい傾向でしたが、2020年には、緊急事態宣言など感染拡大を防止するため、国や三重県のコロナ対策に足並みを揃え、外出自粛や経済活動を人為的に抑制したことから大幅に減少しました。

四日市市の観光客数（主要５施設）の推移



（４）四日市市の観光政策等

① 四日市市観光・シティプロモーション条例（平成２８年４月１日施行）

四日市市は、２０１６年に「四日市市観光・シティプロモーション条例」を制定し、以下の目的を達成するために市民・企業・行政の責務や役割等を定めました。

【条例抜粋】第１条（目的）

この条例は、本市の都市イメージの向上及び市民が地域を誇らしく思う心の醸成を図るとともに、その魅力の創造と発信によって、市外からの交流人口や定住人口の増加を促進し、もって、産業と環境、産業と文化が調和した都市として、持続的な発展に資することを目的とする。

② 四日市市総合計画（計画期間：２０２０年度～２０２９年度）

四日市市は、２０２０年３月に「四日市市総合計画」を策定し、基本的政策の一つに「交流を生み出す新たな四日市流都市型観光」を掲げ、四日市市ならではの観光資源や市民・事業者・行政によるおもてなしにより、多くの人が訪れるまちの実現に向けて施策を推進しています。具体的な施策（一部）は以下のとおりです。

（四日市市総合計画【P.81 から抜粋】）

- ① ICT などの最先端の技術を活用したイベント・競技の開催や情報発信
- ② ビジネス客などが楽しめるナイトタイムコンテンツの充実
- ③ 地域ブランドを用いた新たな四日市土産を生み出す仕組みづくり

（５）四日市のまちづくり

① 四日市中央通りの再編

四日市市は、２０２７年のリニア中央新幹線の東京－名古屋間開通による効果を最大限享受できるよう、近鉄四日市駅や JR 四日市駅周辺等において駅前広場や歩行空間等の整備を進めるなど、四日市市の交通結節点機能の強化を進めています。既に、四日市市は２０１８年１２月に「近鉄四日市駅周辺等整備基本構想」を策定し、その後、様々な検討を実施し、２０２２年３月には『「ニワミチよっかいち」中央通り再編基本計画（第２期中間とりまとめ）』をとりまとめています。

この計画には、２０２１年３月に国直轄事業化が決定した「四日市バスタプロジェクト」の内容も含まれています。このプロジェクトにより、近鉄四日市駅の東西南の３か所に分散するバス停が１か所に集約され、利用者の安全性や利便性が確保されます。また、交通拠点を活用した賑わい空間が創出されることから、地域経済の活性化にも期待ができます。今後は整備後の利活用方法の検討や詳細設計、工事が進む計画となっています。

四日市中央通りの再編イメージ



近鉄四日市駅東側の将来イメージ



中央通り整備エリア

「ニワミチよっかいち」中央通り再編基本計画（第2期中間とりまとめ）から抜粋

② 四日市みなとまちづくりプラン（２０２１年１１月策定）

四日市市には、四日市港発祥の地である「四日市地区」と現在の物流の中心となっている「霞ヶ浦地区」などに港があります。四日市みなとまちづくりプランは、「四日市地区」の将来像をイメージした基本構想であり、古き良き歴史的景観を残す港に人流などを生み出すプロジェクトが示されています。

前述の四日市中央通りの再編から港（四日市地区）までつながる一体的なまちづくり構想が検討されています。

千歳運河賑わい創造プロジェクト

対応する戦略：歴史・文化 交流・賑わい ゲートウェイ まちとの連携 安全・安心

千歳運河沿いを物流のための運河から、賑わいの空間としての運河に再生する。短中期には、イベントの実施によって賑わいを創り出す。運河沿いのプロムナードの整備を継続して進めていき、長期的には賑わい拠点の場を整備する。

将来的に目指す姿（イメージ）



現状をもとに作成

第1埠頭及び周辺地区再生プロジェクト

対応する戦略：歴史・文化 交流・賑わい ゲートウェイ 安全・安心

老朽化した第1埠頭エリアを、海辺の賑わい拠点として再生する。港湾関連施設の既存ストックを有効活用しながら、みなとまちの「賑わい、交流、観光」機能を持った土地利用を図る。

将来的に目指す姿（イメージ）



現状をもとに作成

四日市みなとまちづくりプラン〔基本構想〕から抜粋

4. 今後の課題と見通し

(1) 観光協会の事業課題

前述の「観光の現状と取り巻く環境」のとおり、近年、観光産業はコロナによる影響を大きく受けており、生活様式や消費者行動の変化に迅速に対応する必要があります。また、国の直轄事業による「四日市バスタプロジェクト」を含む四日市中央通りの再編が進められており、整備後を見据えた賑わい創出や広域連携、観光資源へのアクセス（二次交通）等の受入環境の整備など、多岐にわたる取り組みが求められます。

一方で、観光分野において、四日市は全国的に有名な観光資源がないことから、観光産業が重要視されていない状況にあります。また、この状況が今後の数年で大きく変化するとは考えにくく、有名なテーマパークが新たに建設されるなど社会的インパクトが大きな事象が発生しなければ、突如として多くの旅行者が来訪することはないと想定されます。

しかしながら、社会的に成熟した日本において、多様な魅力を持つまちへ発展することは、交流人口・関係人口の増加には重要であることから、既存の四日市の魅力を磨き上げていく・掘り起こしていく方法で効率的かつ効果的な観光・まちづくりの魅力創出に取り組んでいく必要があります。

以上を踏まえて、当協会の事業において、次ページのような課題に対応する必要があると考えます。

観光協会の事業課題

With／Afterコロナを見据えた賑わいの創出

生活様式や消費者行動の変化に対応した観光振興・シティプロモーションの実施

観光資源へのアクセス（二次交通）など受入環境の整備

バスタ開業後を見据えた中心市街地の賑わいの創出

近隣市町などとの広域連携による観光客等の誘客

（２）観光協会の組織課題

前述の「事業課題」を解決するため、冒頭の「観光協会の概要」に掲載している事務局を含めた組織体制や財務状況、多岐にわたる業務内容のほか、運営状況などについて分析した結果、当協会の組織面において、以下のような課題を解消する必要があると考えます。

観光協会の組織課題

人材・自主財源の確保

カバナンスの確立（理事と事務局の意思伝達）

観光・まちづくりに関する知見の取得

効率的な事業運営（重点事業の設定）

中長期的な目線での事業の企画・実施

(3) 今後の見通し

① 日本の観光産業の見通し

2020年2月以降コロナの影響により、観光産業は大きな打撃を受けましたが、徐々に行動制限等が緩和され、経済活動が再開され始めました。今後も、予断を許さない状況ではありますが、観光需要は回復基調にあると考えられます。観光庁においても、需要喚起策や需要回復を見据えた魅力ある観光地づくりの支援メニューなどが用意されています。

一方、旅行者の目線では、コロナ前に比べ旅行へのハードルが上がっていると考えられます。頻繁に旅行することが周囲に好印象を与えない状況において、1度の旅行を大切にする傾向が強まり、旅行の目的を明確にし、旅先の情報をより詳しく調べる旅行者が増えています。

インバウンドについては、世界各国から強い訪日意欲が示されており、入国制限の緩和や円安の影響も追い風となり、多くの外国人旅行者が日本に訪れ始めており、今後もコロナ前の水準に向けてリバウンドすると想定されます。

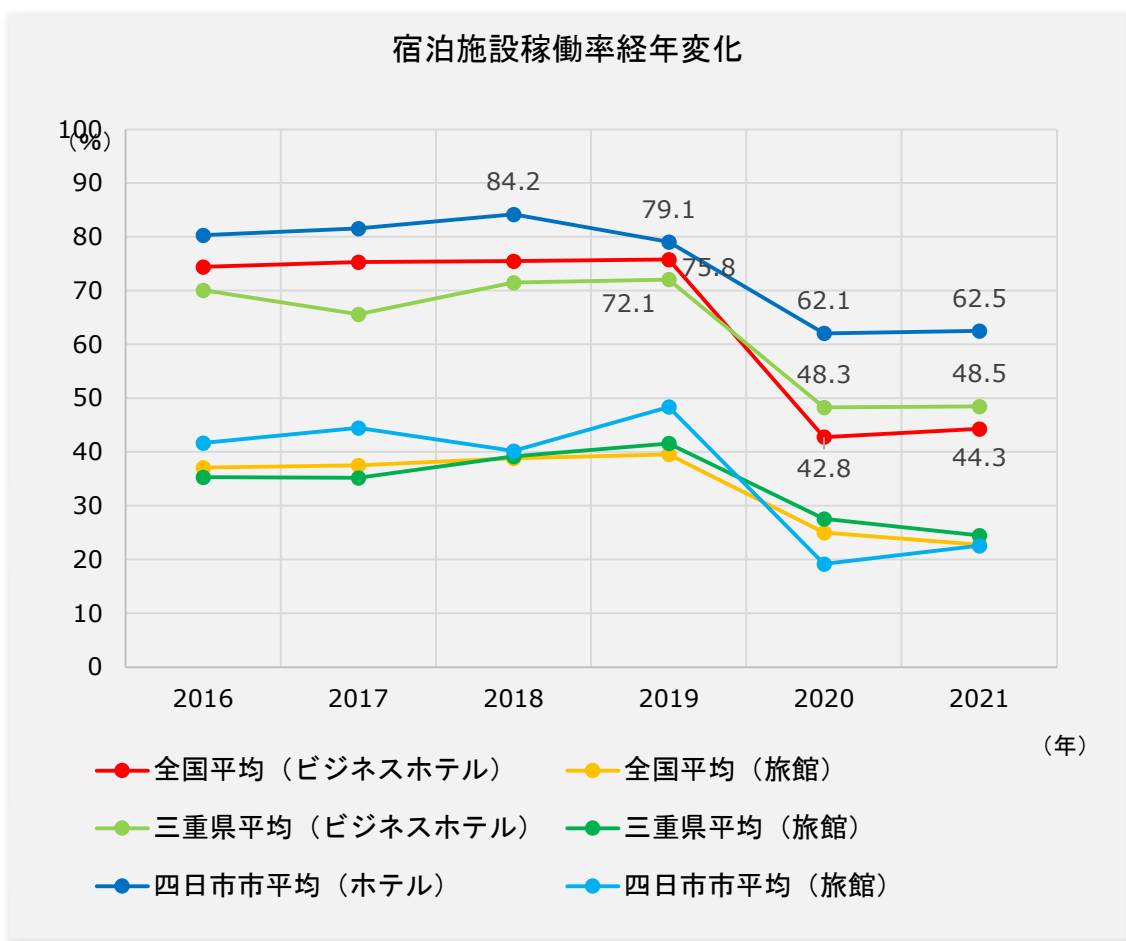
② 四日市ならではの特殊要因の見通し

今後の見通しを予測する上で、四日市ならではの特殊要因は主に2つ考えられます。1つ目は、確実性の高くポジティブな要因の「四日市中央通りの再編」です。2つ目は、不透明性が高くネガティブな要因の「ビジネス目的の来訪者数の回復」です。

1つ目の「四日市中央通りの再編」に関しては、2027年にバスタ開業が予定されており、その際には、まちのイメージが大きく刷新されるものと考えられます。開業時は話題性等も相まって、多くの来訪者が中心市街地に訪れることが期待されます。このような背景から、新たなビジネスチャンスが生まれると考えられます。さらに、「四日市中央通りの再編」をきっかけに、周辺の商店街では日常的な賑わいを創出するための検討が開始されており、中心市街

地の商店街振興組合をはじめ、様々なステークホルダーが将来を見据えた取り組みを始めています。

2つ目の「ビジネス目的の来訪者数の回復」に関しては、四日市市は一般的な観光地と比較して、ビジネス目的の宿泊客が多く、コロナ禍の2020年、2021年の市内宿泊施設の稼働率は約60%とコロナ前の約80%と比較して減少幅が20%程度となっており、全国平均の減少幅33%と比較して、減少率が小さくなっています。一方で、リモート会議の普及や働き方の見直しが急速に進展したことから、コロナ前の宿泊稼働率まで回復するかは不透明な状況にあり、ビジネス目的以外の需要創出に取り組む必要があります。



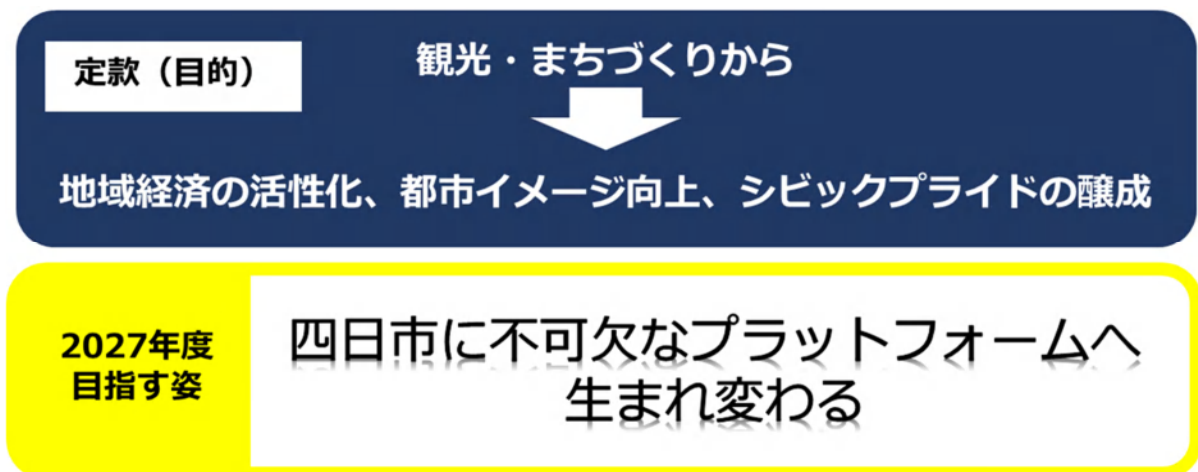
5. ビジョンについて

当協会は、2021年4月1日に一般社団法人となり、今後は、経営の視点に立って中長期的な観光・まちづくりを推進します。観光の現状や取り巻く環境、今後の課題を認識するとともに、現状の分析も踏まえ、当協会のビジョンとして、以下のとおり目指す姿や重点的に取り組む事業などを設定します。

(1) 目指す姿と戦略期間

① 目指す姿

これらの見通しを踏まえ、定款の目的を達成するために、当協会は、地域一丸となった取り組みを推進する中心を担う役割が求められることから、目指す姿は以下のとおりとします。



② 計画期間

今後の課題と見通しを踏まえて、計画期間は、バスタ開業予定の2027年までを区切りとして、以下のとおりとします。なお、計画期間は5年間としますが、社会情勢の変化に対応する必要がある場合は見直しを実施します。

○本ビジョンの計画期間 : 2023年度～2027年度（5年間）

（２）ビジョンの重点事業

目指す姿の実現にあたって、四日市が他市町に比べ優位性を有するポイントや四日市ならではの特殊要因を生かすことを意識し、以下の３つに重点を絞って事業を実施します。

重点事業 01

四日市に訪れるビジネス客の消費を喚起するコンテンツやイベントを造成・実施するとともに、その情報を適したタイミングで確実に伝達する。

重点事業 02

中心市街地をはじめ、市内の賑わいを定期的に創出する。また、近隣市町等と連携して北勢エリアの魅力を高め、四日市への来訪者及び市内での消費を増加させる。

重点事業 03

四日市に不可欠なプラットフォームになるためのポジション獲得や人材・財源の確保を実現するための組織体制の強化を実施する。

(3) 重点事業の考え方と具体的な施策

重点事業 01

四日市に訪れるビジネス客の消費を喚起するコンテンツやイベントを造成・実施するとともに、その情報を適したタイミングで確実に伝達する。

- 四日市はビジネス客の割合が最も多いことから、ビジネス客へおもてなしの充実を図ります。
- ビジネス客は、夕方以降に自由時間が多くなると想定されることから、ナイトタイムの賑わいの創出を中心に事業を実施します。
- ビジネス客は、観光目的の来訪ではないことから、事前に自由時間の過ごし方をプランニングしている割合は低いと考えられるため、手軽に楽しめる地域ならではの情報を提供します。

具体的な施策

- ① ビジネス客の余暇時間をターゲットとした観光コンテンツの造成
- ② ナイトタイムにおける滞在・周遊・消費を促進する企画の実施
- ③ ビジネス客に訴求する情報の効果的な発信

① ビジネス客の余暇時間をターゲットとした観光コンテンツの造成

With/After コロナを見据えて、ビジネス客が余暇時間に手軽に楽しめる四日市ならではの体験型コンテンツ等を造成・販売します。



川崎市事例：東京レストランバス



周南市事例：工場夜景観光タクシー

② ナイトタイムにおける滞在・周遊・消費を促進する企画の実施

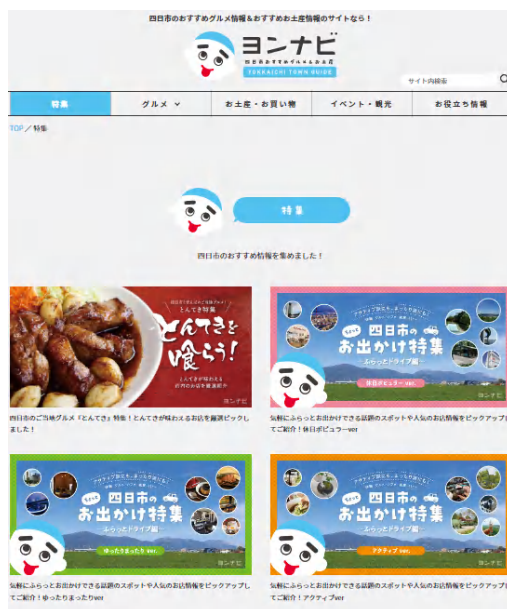
宿泊施設等と連携し、ビジネス客が思わず宿泊施設から出てたくなる企画を造成し、ナイトタイムの賑わいによる地域活性化を図ります。



四日市まちなかバル 事例：定禅寺ジャズフェスティバル
(実施：四日市まちなかバル実行委員会)

③ ビジネス客に訴求する情報の発信

ビジネス客をメインターゲットとしたWEBサイト「ヨンナビ」に情報を集約し、宿泊施設のフロント、SNS などビジネス客の目に触れる機会を捉えて情報発信を実施します。



ポスターによる情報発信 HP による情報発信
(実施：四日市観光・シティプロモーション協議会)

重点事業 02

中心市街地をはじめ、市内の賑わいを定期的に創出する。
また、近隣市町等と連携して北勢エリアの魅力を高め、
四日市への来訪者及び市内での消費を増加させる。

- 四日市中央通りの再編などにより、中心市街地の注目度が高まると予想されます。県内の主要観光地への通過点・経由地となっていた四日市に足を止めていただくような賑わいを創出し、交流人口の増加を図ります。
- また、「住んでよし、訪れてよし」のサステナブルな発展のため、市民の安全・安心に配慮しながら、市民も楽しめるイベント等を企画します。
- 宿泊稼働率調査の結果から、四日市の宿泊施設は休日の方が平日より稼働率が低いため、休日の宿泊稼働率が高まるよう近隣市町等と連携して北勢エリア全体の情報発信を実施し、需要の平準化・多様化を図ります。

具体的な施策

- ① 中央通り周辺の賑わいを創出する定期的なイベント等の企画・開催
- ② 新たな観光資源の創出と受入環境の整備
- ③ 近隣市町等との情報共有及び効果的な情報発信

① 中央通り周辺の賑わいを創出する定期的なイベント等の企画・開催

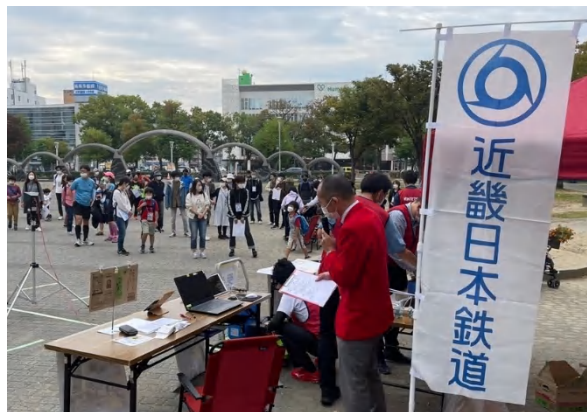
中央通り再編に伴いイベントスペースが新たに設けられた場合を想定し、定期的にイベント開催や運営管理を実施することを見越して、再編前からイベント等の企画・運営を行います。



他市事例：ファミリー向けイベント



川越町事例：モルタンマルシェ



鉄道ロゲイニング in 四日市
(実施：近畿日本鉄道株式会社)

② 新たな観光資源の創出と受入環境の整備

四日市ならではの観光資源を発掘し、新たな観光需要の創出を図るとともに、中央通り再編後のバスターミナルから市内の観光資源への二次交通など受入環境の整備を図り、来訪者が安心して気軽に楽しめる環境を整備します。



四日市ならではの体験型コンテンツ
(実施：四日市商工会議所)



四日市工場夜景クルーズシャトルバス
(実施：株式会社第一観光)

③ 近隣市町等との情報共有及び効果的な情報発信

観光を目的とした近隣市町への来訪者をターゲットとして、これまで通過点・経由地となっていた四日市に立ち寄っていただくために四日市の情報提供を実施するとともに、近隣市町と連携した効果的な情報発信を行い、北勢エリア全体の魅力を高めます。



三重県事例：みえ旅おもてなしポイントプログラム「みえポ」

重点事業 03

四日市に不可欠なプラットフォームになるためのポジション獲得や人材・財源の確保を実現するための組織体制の強化を実施する。

- 四日市の玄関口になるバスタは来訪者に第一印象を与える重要なエリアであることから、バスタ運営会社と提携し、観光案内や物販・飲食施設の運営権を獲得し、会員と連携しながら四日市の魅力発信を実施します。
- 施設の運営管理などは、経験と知識が求められることから、将来的に施設運営を担うにあたり、職員のスキルアップを図ります。
- 安定した協会運営や優れた人材確保には、市からの委託料のみならず、自主財源の確保が必要です。稼げる協会運営を目指し、人材・財源確保を進めます。

具体的な施策

- ① バスタ運営会社との定期的な情報交換と提携の交渉
- ② 安定した協会運営のための職員のスキルアップ
- ③ 物販やイベント開催等による自主財源の確保、人材の獲得

① バスタ運営会社との定期的な情報交換と提携の交渉

中央通り再編に積極的に関与するとともに、特に四日市の玄関口となるバスタにおいて四日市の魅力発信等を実施するため、バスタ運営会社が決定後、定期的に情報交換を行い、業務の提携等を検討・交渉します。

② 安定した協会運営のための職員のスキルアップ

事業の拡大に伴い、組織の拡大が必要となることから、安定した協会運営に必要な人材（ジェネラリストとスペシャリスト）を育成するため、様々なセミナーや研修等に参加し、職員の知見を高めます。

③ 物販やイベント開催等による自主財源の確保、人材の獲得

積極的に物販やイベント開催等を実施するとともに、収益性を意識し、自主財源の確保に努めます。また、確保した財源を活用し、優れた人材を確保し、組織体制の構築を進めるとともに、新たな事業にチャレンジします。

※画像は四日市市が作成したイメージです。



四日市ブランドなど新たな物販の開拓や EC の導入などの検討

(4) KPI (成果指標)

重点事業 0 1 の KPI

KPI (成果指標)	基準値	目標値
ビジネス客向けコンテンツ造成数	0 (2022)	5 (2027)
ナイトタイムイベント開催件数	0 (2022)	2 (2027)
ヨンナビ HP 閲覧者数	15,498 (2021)	38,563 (2027)

重点事業 0 2 の KPI

KPI (成果指標)	基準値	目標値
イベント開催件数	0 (2022)	4 (2027)
新規コンテンツ造成数	0 (2022)	5 (2027)
協会 HP 閲覧者数	165,117 (2021)	411,000 (2027)
SNS フォロワー数		
Instagram	1,885 (2022.12)	4,700 (2027)
Twitter	518 (2022.12)	1,300 (2027)

重点事業 0 3 の KPI

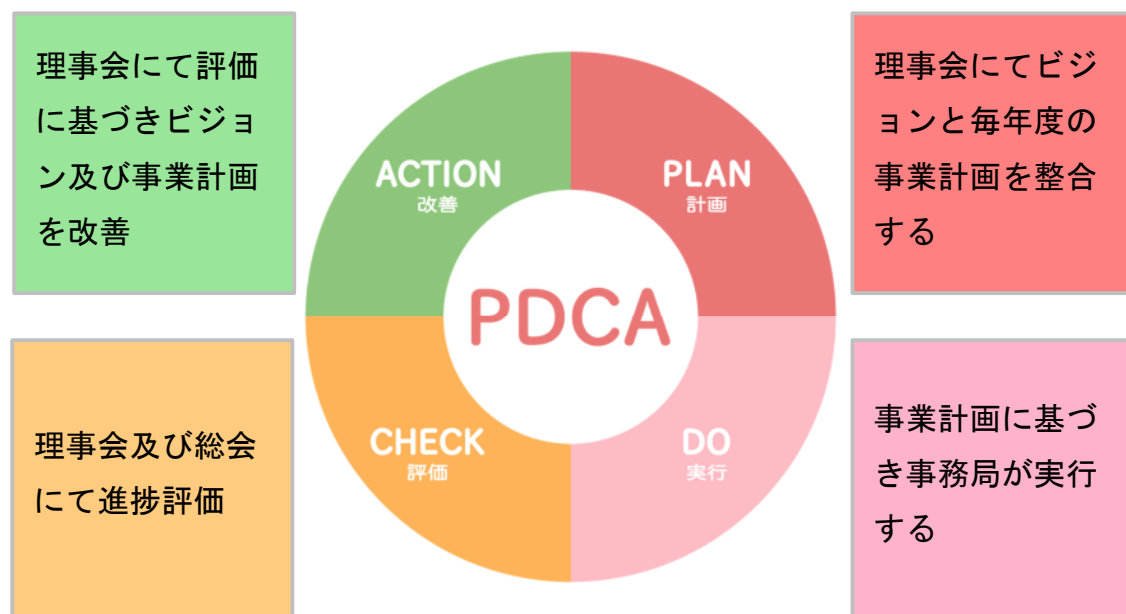
KPI (成果指標)	基準値	目標値
バスタ運営会社との業務提携	0 (2022)	1 (2027)
職員のセミナー等参加回数	0 (2022)	50 (2027)
収益事業収入	2,324,241 (2021)	5,784,000 (2027)

6. 推進体制及び進捗管理

(1) 推進体制

観光・まちづくりは、当協会だけではなく、会員を始めとした民間事業者・団体等が連携して面的に推進する必要があり、行政はそれらの取組が活発に実施・成功するよう支援・協力いただく必要があります。

本ビジョンの実現にあたっては、各組織が以下の図の役割を担うことを想定し、役割を分担しながら推進します。



(2) 進捗管理

本ビジョンの進捗は、各取組の進捗状況を KPI にて毎年度評価し、総会にて報告し、ご意見をいただくとともに、社会情勢の変化等に合わせて、見直しを実施します。

発行 一般社団法人 四日市観光協会

三重県四日市市安島一丁目 1 - 5 6

四日市物産観光ホール内

TEL : 0 5 9 - 3 5 7 - 0 3 8 1

FAX : 0 5 9 - 3 5 5 - 8 3 1 1

Mail : kanko@m3.cty-net.ne.jp